学位被授与者氏名	納富　菜摘（のうどみ　なつみ）
論文題目	外国人非集住地域における外国人住民の居場所 －北九州地区のカトリック教会に集うベトナム人に着目して－
論文審査結果の要旨	外国人住民の生活に関する調査・研究は、これまで外国人集住地域を対象にしたものが多かった。近年、非集住地域を対象にした研究も出てきているが、その数は必ずしも多くない。そうした中、非集住地域である「北九州地域」のベトナム人の生活を、居場所の機能といった観点から分析した本研究は先駆的な研究として位置づけられる。 また、納富氏はベトナム語でのコミュニケーションは十分にできないが、カトリック教会でのベトナム語ミサに参加し、そこでのつながりを生かしながらインタビュー調査とアンケート調査を行ったことも評価できる。最終試験の際の質疑応答で、納富氏のフィールドワーカーとしての能力を評価する声もあった。 さらに、インタビューの分析から、同じく教会という場であっても当人が形成する関係の形によってその機能は異なること、居場所がエスニックアイデンティティを保持する場として意味づけられていることなどを見いだした点は興味深い。また、アンケート調査からも、教会、職場、日本語教室、SNS でのベトナム人コミュニティが持つ意味の違いが示された。これらの知見についても一定の評価はできるだろう。 他方で、審査委員からは以下のような点が指摘された。 まず、カトリック教会に集うベトナム人を対象にしたことによるバイアスの問題である。教会に集う人を対象にした場合、教会を居場所とする人が多くなることはある意味当然である。教会以外にも、たとえばベトナム人が多く集まるベトナム料理店なども居場所として考えられるが、納富氏によれば、ベトナム語が十分にできないためそこは対象にできなかったという。また、同じく教会に集う人であっても日本人信者とベトナム人信者とを比較をすることによって、ベトナム人にとっての教会の意味や機能がより明確に描けるのではないかとの指摘もあった。 次に、調査データの分析の深さについてである。最終試験の質疑応答では、審査委員からインタビュー調査の分析とアンケート調査の分析の配置順について質問がなされた。アンケート調査で得られた知見をインタビュー調査でより深く分析するのが一般的な流れである。しかし、本論文では時間的な制約もあって、両調査から得られた知見の双方向的な分析（たとえば、アンケートから得られた結果をインタビューでより深く解釈する）は必ずしも十分には行われていない。また、アンケート調査の分析も単純集計レベルにとどまっている。こうした点は納富氏自身も自覚していた。本論文の最後に挙げられた今後の課題（居場所の違いなぜ生じるのか、また同じ場であっても機能の違いがなぜ生じるのかを明らかにしていくこと）はそれを示すものだろう。 2025 年 2 月 17 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 205 教室において審査委員全員出席のもと最終試験を実施した。納富氏から修士論文の内容について報告を受け、質疑応答の後、審査委員全員一致で当該論文が修士（人間関係学）として十分な内容であると判定した。